

# いつも一緒 富山のペットたち

動物病院での日常の診療で、「血色が良いですね」という表現を使うことがあります。

血色は、まぶたの裏側や結膜、口の中、皮膚の色で判断できます。これが視診と呼ばれる診断方法です。今回は、視診から発見することが多い貧血と、その中で致死率が20〜70％程度と決して低くない犬の免疫介在性溶血性貧血（IMHA）について解説します。



粕谷 圭治

かすや あいけん びょういん院長  
(富山市北新町)

## 犬の貧血

貧血とは、血液中の赤血球と赤血球中の色素であるヘモグロビンが少なくなり、全身の酸素が減少した状態のことを言います。貧血の種類は、赤血球が減少する場合は再生不良性貧血、溶血性貧血、出血性貧血などがあり、ヘモグロビンが低下する場合には鉄欠乏性貧血、サラセミア、鉄芽球貧血、トランスフェリンの欠乏症、鉛中毒などが挙げられます。

IMHAは、前者の溶血性貧血の一種で、免疫反応によって起こります。つまり、体内の免疫システムが赤血球を異物と認識し、極度に破壊する(溶血する)疾患です。

この病気がかかると、元気が

食欲がなくなり、結膜、口の中、鼻などの粘膜が青白くなりま

どによく見られます。発症の割合は雄より雌のほうが3〜4倍

# 白い歯茎に要注意

### 遺伝が影響か

IMHAの原因は明らかになっていませんが、遺伝が関わっている

確定診断するためには多くの検査が行われ、免疫反応の判定

### 変化を見抜く

生命の危険を伴う重症の犬には、酸素吸入や輸血などさまざまな治療が併用され、病状の管理は大変複雑になります。

「食欲がなく熱がある」「いつもは散歩好きなのにきたがらない」「散歩に行っても、すぐにしゃがんだり、帰りがたつたりする」「いつもうずくまっていた息が荒い」「おしっこが赤い」。このような状態で、歯茎が白ければ貧血の疑いがあります。

もしIMHAにかかっていたら、手当ての遅れは命に関わります。飼い主の方と相談して、迅速に治療方針を決めなければなりません。動物の容態に合わ



貧血の治療のため、薬剤を点滴中のトイブドール

2012(平成24)年 5月3日  
北日本新聞